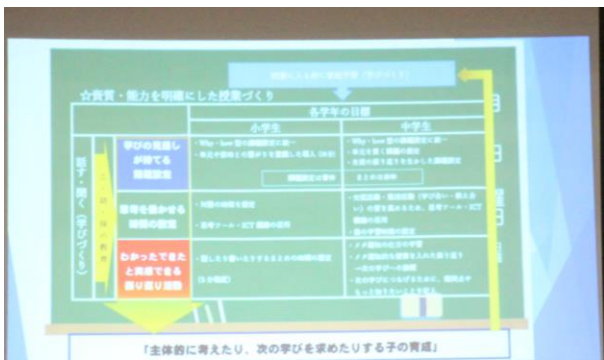
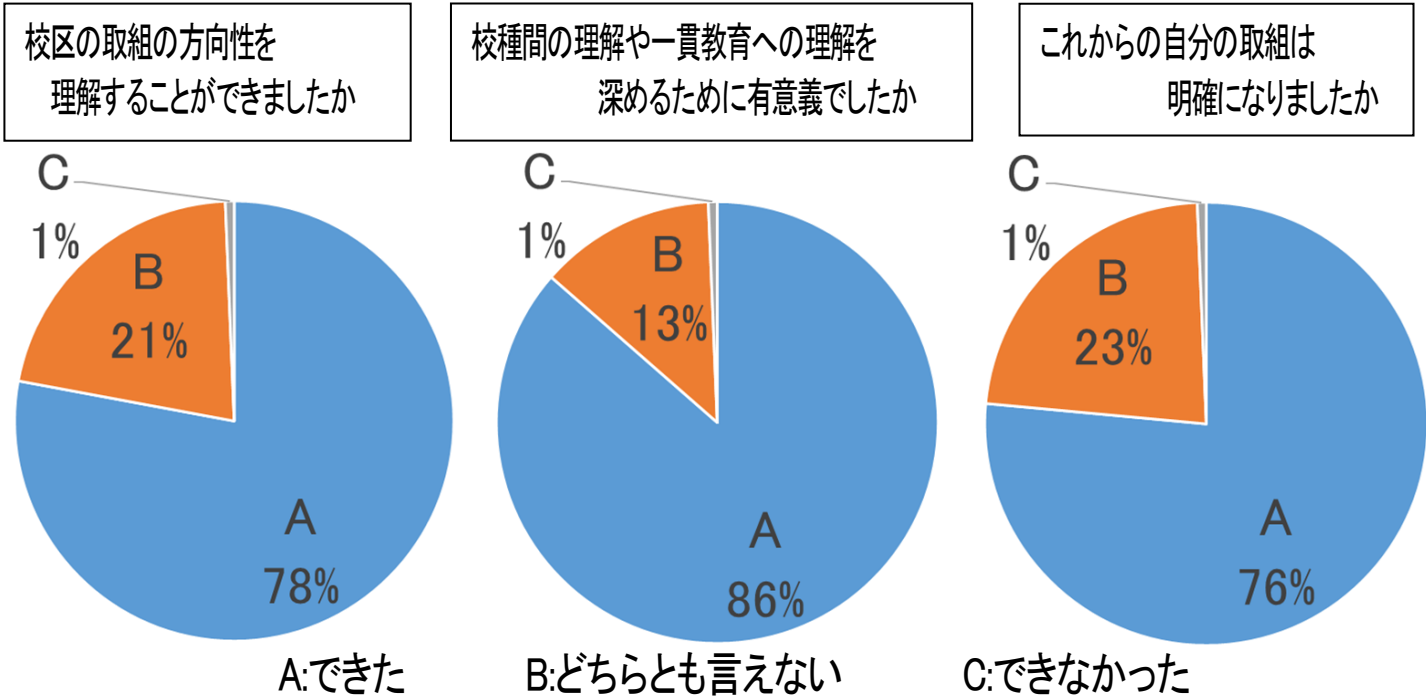


深・魅力通信

袋井あやぐも学園一貫教育研修会でつながる保幼小中 その4

袋井あやぐも学園一貫教育研修会では、保幼小中の全ての先生方が西小学校の授業を参観し、分散会で話し合い、鳴門教育大学教職大学院教授の久我先生お話を聞きました。そのときの感想を紹介します。



保 心の整理、内面を整える。保育園の先生たちの関わり方にも十分いかせま
す。子どもたちの良さに目を向け、声に出して伝えて行きます。わかりやす
い内容で、とても深い学びに繋がりました。

保 心と体を整えることが、すべての教育の大前提であること、勇気づけ教育
によって、個々が自信を持って前に進んでいけるよう、その基礎である幼児
期が大切であると改めて感じました。

幼 保幼小中の普段の様子を話す機会が増えると、お互いに子どものつまず
きを知ることができて、自分の園の保育にもプラスになるので良いなと感じま
した。

幼 どう声かけをするか、どういう関わりが効果的なのか、考えたいと思いまし
た。ボイスシャワーについては、前回の講演の際に知り、取り組んでいます。
子どもたちが変わったことを実感しています。

小 15歳の出口の共有をしていくことの大切さを改めて感じました。そのため
の学園内の先生方と話す場が大切だと感じました。

小 「誰にでもできること」「シンプルな取組」を組織的に行っていくことの大切さ
が分かりました。「聞く」指導がどの校・園でも統一されているので、教師にと
っても子どもにとっても分かりやすいのだと実感しました。

中 「情緒的サポート」を意識してやっていきたいと思います。自己決定の場を
どれだけ設けられていただろうか、と反省しました。日常のほんのちょっとした
ことから、自分たちで決めるよう言葉掛けを工夫していきたいです。

中 小学校のスタートを見据えた子幼保のゴール。中学校のスタートを見据え
た小学校のゴール。これらを見通した教育をしていく必要があると改めて感
じました。